

## 第1回 教職の魅力創造プラットフォーム会議事録

日時：令和5年7月25日（火）16：30～17：50

場所：山形大学地域教育文化学部会議室

### 出席者

委員	中西 正樹	山形大学地域教育文化学部	学部長・大学院教育実践研究科	研究科長
	吉田 誠	山形大学地域教育文化学部	教授	
	石垣 和恵	山形大学地域教育文化学部	准教授	
	江間 史明	山形大学大学院教育実践研究科	教授	
	森田 智幸	山形大学大学院教育実践研究科	准教授	
	叶内 有希絵	山形県教育局高校教育課	指導主事	
	阿部 佳宣	山形県立山形西高等学校	教諭	
	山岸 和	山形大学地域教育文化学部児童教育コース	4年	
	遠藤 耀	山形大学地域教育文化学部児童教育コース	4年	
	鬼海 仁	山形県立山形東高等学校	2年	
	高橋 七海	山形県立山形西高等学校	2年	
	青柳 敦子	山形県立長井高等学校	校長	
	樋渡 美千代	山形県教育センター	副所長	
	宮舘 新吾	山形大学大学院教育実践研究科	准教授	

### 欠席者

委員	出口 毅	山形大学副学長（教育担当理事）
----	------	-----------------

議事に先立ち、中西研究科長より挨拶として、教員採用試験倍率について話題提供があった。厳しい状況が例年続いているが、大学をはじめとして、各機関が連携して問題に取り組んでいくことが必要であり、その観点ではこのプラットフォーム会議が大きな意味を持つと認識している。会議では、特に高校生や大学生が日常で感じていることを、遠慮をすることなく発言していただきたい旨、発言があった。その後、委員の自己紹介が行われた。また協議事項は、「山形大学地域教育文化学部及び大学院教育実践研究科教職の魅力創造プラットフォーム会議規程」第5条により、中西正樹委員を議長として進めることが提案され、了承された。

### 議 題

#### I 協議事項

##### 1 教職の魅力創造プロジェクトの目的

森田委員から、資料3に基づき本プロジェクトの目的とこれまでの活動について説明がなされた。協議事項2における各プロジェクトの進捗状況の説明の後、あわせて意見交換を行うこととなった。

##### 2 教職の魅力創造プロジェクトの進捗状況について

叶内委員から、机上配付資料に基づき小学校教員体験セミナーについて、江間委員から、資料4に基づき聞き書きプロジェクトについて、森田委員から資料5に基づき学びのフォーラムについて説明があり、確認がなされた。次いで、以下のような意見交換があった。

① 小学校教員体験セミナーについて

- ・令和4年度開催の小学校教員体験セミナーに参加し、特に事前オリエンテーションの中で、学校現場ではどのような視点で観察すればよいのかを知ってから実行に移すことで、多くの学びがあった。同じ学校の友人たちから本セミナーについて体験を問われることもあり、今年度の開催も楽しみにしている。

- ・諸般の事情により、令和6年度から事前オリエンテーションの構成変更を検討している。どんなことを聞きたいか、聞くことができればよかったか、特に高校生が感じていることをお聞かせ願いたい。

(関連意見)

- \*児童の考え方、授業中の思考回路を中心に事前オリエンテーションで学んだこともあり、その点に着目しすぎた経験がある。しかし、学校現場では、担任教員の工夫が様々な場面に散りばめられており、教員に対する着眼点も事前に学びたい。

- ・小学校教員の志願者減少問題について、高校生へのアプローチが実践されているが、高校生の視点として、高校入学時には既に進路希望分野が決まりつつある友人たちも多いように感じている。中学生など、より早い段階から本セミナーへの参加を検討することはできないだろうか。

(関連意見)

- \*現在の実施形態をそのまま中学校現場に拡げていくことは難しい面もある。中学校で実施されているキャリア教育に連携して、大学生や若手教員が出身中学校を訪れてメッセージを送る方法もあるのではないか。近い年代の言葉は親和性も高い。

- ・中学校で実施されているキャリア教育に関連して、高校生が実際に教育現場を訪れたことがあればその経験を伺いたい。

(関連意見)

- \*いわゆる地元企業訪問を中心に構成されており、学校を訪問する選択肢がほぼ無かったように記憶している。
- \*企業に中学校に出向いてもらい講話を聞く機会があったが、教育系の機会は少なかったように感じる。
- \*キャリア教育で小学校を訪問した当時の友人たちは、構内の環境美化活動を中心に取り組んだと聞いている。

- ・本セミナーは、事前オリエンテーションの果たす役割が大きい。大学の授業を先取りするような内容も取り扱い、学校現場の教室での効果的な見方、観察視点を学んでいる。つい教員の動きに着目しがちになるが、児童生徒に目を向けることが重要。

②聞き書きプロジェクトについて

- ・本プロジェクトで制作された作品を、学校内初任者研修や教育実習生に読んで学んでもらっている。県教育センターでの初任者研修での活用も検討されたい。教職への思いも一段と高まることが期待される。

- ・地域教育文化学部4年生の必修科目「教職実践演習」での選択課題の一つとして本プロジェクトを扱っている。選択する際、プロジェクトの意義をさらに伝える工夫があってもいいのではないか。

### ③学びのフォーラムについて

- ・例年開催の本フォーラムには現職教員も参加しているが、課題に対してどのような立場をとっているのか。

(関連意見)

\*本フォーラムでは、高校生、大学生、現職教員が交流するようなグループを作成し、課題に対して同じ立場で取り組んでもらっている。教員であっても難しい題材を取り扱っていることもあり、コーディネーターのような役割ではなく、各参加者が対等な立場で議論できることがこのフォーラムの最大の魅力である。

- ・現職教員が高校生や大学生と学びあうことは、良い刺激になっている。教職の面白さや学ぶことの原点に触れなおすような、貴重な機会となっている。

- ・今年度は12月の開催を予定している。高校教員や生徒として開催時期は適当か。

(関連意見)

\*部活動も落ち着き、進路を考える時期であり、適切だと感じる。

- ・例年どのようなグループワークをしているのか、あらためて伺いたい。

(関連意見)

\*4人グループを形成し、できる・考える・遊ぶことを題材とした文献について答えを導いていくワークを実践している。

- ・12月は様々な事業やイベントもあり、周知に苦慮することも予想される。高校の探究学習で教育系のテーマを扱うグループ等へ声掛けできれば効果的なのではないか。

### 3 今年度の今後の予定について

森田委員から、各プロジェクトの実施時期は協議事項で説明のとおり、本会議の次回は令和5年12月17日(日)9:15より開催する予定である旨発言があり、確認がなされた。

### 4 その他

吉田委員から、学びのフォーラム第3回と次回本会議の開催が同日であることについて質問があり、開催時間を午前午後にかけて実施する予定である旨、確認がなされた。

